



2014～2015年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

やらまいか

例会日/毎週火曜日 12:30 例会場/豊川商工会議所

会長/滝下 勲 幹事/伊藤正幸 会報委員会/河本圭史・大場 篤

事務局/豊川市豊川町辺通4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889

HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

クラブテーマ: 和の心と・地元を奉仕を

本年度第11回 通算1357回 平成26年9月16日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	9/2 修正出席率
		56名	25名	52.1%	88.2%

ゲスト:(なし) ビジター:メーキャップ受付6名

★会長あいさつ

滝下 勲会長



こんばんは。日が沈むのが早くなりました。今週の土曜日に穂の国青年会議所の創立55周年の式典があり、こちらに出席して参ります。また、豊川工業高校の創立70周年記念式典の案内も来ています。こちらは11月13日で、こちらにも出席をする予定をしています。

今日の例会はクラブフォーラムです。夏目会長のもとで25周年式典の準備をしている時に東日本大震災が起こり、式典を縮小して懇親会を取りやめました。未曾有の出来事だったので、計画を変更せざるを得ませんでした。私は副幹事をしていましたから色々あったので良く覚えています。あれから来年で5年経つと思うと月日が経つのは早いと思いました。30周年に向けて皆さんの意見を出して頂き、よりよい30周年が出来れば良いと思っています。よろしくお願ひします。

今日から各テーブルで意見交換をして頂きたいと思います。テーマは①“花いっぱいプロジェクト”を今後どうするか？(桜の植樹も含めて)②30周年記念事業はどうするか？の2点について話し合ってください。各テーブルで出た意見を発表して頂きます。

★幹事報告

伊藤正幸幹事

例会臨時変更のお知らせ

★委員会報告

親睦委員会(池田委員長)

11月11～12日秋の行楽開催について

★クラブフォーラム

30周年準備委員会 小野委員長

皆さん、こんばんは。本日は30周年準備委員会担当のクラブフォーラムです。



30周年準備委員会

では、2回ほど委員会を開いています。メイン事業は、皆さんからのご意見を頂き、今後に向けて進めて行きたいと思っています。

まず、30周年準備委員会の前身のステップアップ委員会の2年間の活動の流れと過去の周年事業についての説明を行います。(スライドで説明)

今日から各テーブルで意見交換をして頂きたいと思います。テーマは①“花いっぱいプロジェクト”を今後どうするか？(桜の植樹も含めて)②30周年記念事業はどうするか？の2点について話し合ってください。各テーブルで出た意見を発表して頂きます。



本日のクラブフォーラムのテーマ

- テーマ①
“花いっぱいプロジェクト”を今後どうするか？（桜植樹も含めて）
- テーマ②
30周年記念事業はどうするか？

テーマ①について

- ・学校に対してはアフターケアをもう少しした方が良い
- ・目的意識がイマイチ見えてこない
- ・事業は終了させた方が良くはないか
- ・県への働きかけをして行政との連携を取って進めてはどうか
- ・河川にこだわらず、希望されて喜ばれる地域に桜の植樹を考えてはどうか

テーマ②について

- ・記念講演を開催して、一般の人たちにも来て頂くのが良い
- ・台湾台中松竹RCに桜を寄贈する
- ・スリランカへ何かの支援をする
- ・若い人達に夢を与えるような講演会の開催
- ・予算がどのくらいあるのか
- ・クラブの活性化できるような事業が良い
- ・寄付事業はやめた方が良い
- ・大弁論大会の開催
- ・記念の親睦旅行の実施

皆さんから貴重な意見を頂きましたので、これを参考に準備委員会を開催して、色々検討して行きたいと思います。ありがとうございました。

★ニコニコボックス

- | | |
|--------|--------------|
| 大木健市会員 | 誕生日を祝って頂き |
| 井指和昭会員 | 結婚記念日を祝って頂き |
| 池田 弘会員 | 〃 |
| 大沢茂樹会員 | 事業所創業を祝って頂き |
| 井指光基会員 | 入会記念日を祝って頂き |
| 永田恵照会員 | 誕生日と創業を祝って頂き |

★ロータリーニュース

ガーナの村にきれいな水を

「5歳未満の子供たちの5人に一人が汚染された水を飲んで死亡している」。これが世界の現実です。しかも飲み水を汲みに行くために、毎年世界で約400億時間が費やされ、その作業は主に女性と子供たちが担っています。

アフリカのガーナでは、人口の20パーセントに当たる約500万人が、汚染された水を使っていると推定され、その結果、多くの人びとがさまざまな病気の危険にさらされています。

ロータリー会員、マーティン・ハタラさん（米国アラバマ州、ボアズ・ロータリークラブ）は、2010年に初めてガーナを訪れ、孤児院でボランティア活動に参加した時、地域の人びとがきれいな水を求めて苦勞している様子を目の当たりにしました。「場合によっては、11キロも歩いて水を汲みに行かなければならなかった」と振り返ります。

ハタラさんのこの経験について知り、ボアズ・ロータリークラブと、同じ州にあるアラバスターペラム・ロータリークラブの会員が立ち上がりました。ロータリー会員たちはガーナのボルタ地域の村、アフラオで、飲み水用の井戸を掘り、村人が長い時間をかけずに、近くできれいな水を汲めるようにしたのです。これで、村の母親と子供たちが水汲みに苦勞する必要がなくなりました。



※写真は初めてきれいな水が利用できるようになったガーナの村で村人と喜ぶ、ロータリー会員、クレイグ・ソレンセンさんと、マーティン・ハタラさん

会報担当：河本圭史会員・大場 篤会員